

フィリピンの貧困地域におけるセルフビルド建築の提案 Proposal for self-built architecture in impoverished areas of the Philippines

○金井和奏¹, 長谷川洋平², 小林直明²

*Wakana Kanai¹, Yohei Hsegawa², Naoaki Kobayashi²

The purpose of this study is to propose residential facilities that enable residents themselves to create their own "living spaces" in the slum areas of Manila, which continue to expand, and subsequently facilitate further developments in their lives, such as in "education," "healthcare," and "religious spaces."

1. はじめに

1-1. 研究背景

近年、発展途上国での貧富の差は大きな問題となっており、技術力の発展から国の経済能力が向上していく一方で、国民に富が行き渡らず、スラム街の拡大やストリートチルドレン、ゴミを拾い売ることで生計を立てるスカベンジャーなど、表面上では隠されている問題が深刻なものとなっている。

フィリピンは、東南アジアの中でも近年安定した経済成長が見込まれている国の一つである。2024年のフィリピンの国内総生産(GDP)は約4,800億米ドルに達し、年平均6%前後の成長率を維持している。これは、リゾート地などのサービス業の拡大、海外フィリピン労働者(Overseas Filipino Workers: OFW)からの送金などが大きな要因となっている。

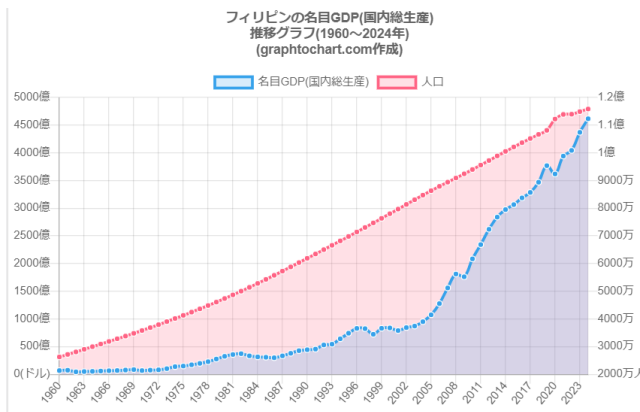


図1 フィリピンの名目GDP推移グラフ

しかし、こうした経済的な成長が必ずしも全ての国民生活の経済的向上をもたらしているわけではない。実際に、2025年2月・7月の二回にわたり現地の貧困地域を視察したところ、「住居」「衛生」「職」「教育」など、生活に最低限必要なものを享受できない家庭や、台風や洪水、火災など、頻繁に起こる災害によって住む場所を失う家族が多くみられた。



図2 著しい格差を持つフィリピン 現地視察の様子

1-2. 研究の目的

本研究では、拡大が広がり続けるマニラのスラム地域に対して、住民自らが自身の「居住空間」を形成し、その後「教育」や「医療」「宗教空間」など、さらなる生活の発展を可能にしていけるような住居施設を提案することを研究の目的とする。

2. フィリピンマニラにおけるスラム街の現状

マニラ首都圏は、国全体のGDPの約3分の1を占める経済的に優位な都市である。しかしその一方で、都市化の急速な進展は、貧困層の深刻な住宅問題を引き起こしている。特に湾岸地域には、「非公式居住地」が拡大し続けており、約230万人以上が不安定なスラム環境に居住していると推計されている。これらの住居は、廃材やトタンを用いた仮設的な構造物であり、上下水道や電力の設備が安定していない。また、高潮や台風による浸水リスクが高く、災害脆弱性も顕著である。

3. スラム支援の現状

フィリピンの貧困地域には、NPO法人や宗教法人、地域ボランティアによって支援活動が行われている。

以下では、現在活動している団体とその内容について取り上げる。

1. Gawad Kalinga (ガワッド・カリング)³⁾
「貧困のないフィリピン」を掲げる. 貧困地域で住宅建設・コミュニティ形成プロジェクトを展開.
2. Caritas Manila (カリタス・マニラ)⁴⁾
マニラ大司教区の公式社会奉仕機関. 食糧支援・医療支援を長年継続.
3. Habitat for Humanity Philippines⁵⁾
安価で安全な住居建設, 住宅修繕プログラムを実施.
4. World Vision Philippines (ワールド・ビジョン)⁶⁾
子どもたちへの教育支援, 就学サポートを行う.
5. フィリピン赤十字社 (Philippine Red Cross)⁷⁾
医療キャンプ, 衛生改善活動を実施. 災害時の避難所運営や救援物資配布を担う.

4. 基本計画

4-1. 計画敷地

敷地名称: スモーキーマウンテン

敷地住所: JXM5+4R4, Tondo, Manila, 128 Metro Manila, Philippines

マニラ・トンド地区のスモーキーマウンテンは, かつて都市貧困の象徴として世界に知られた巨大な廃棄物集積地である. 1990年代の閉鎖後, 政府は同地を緑地へと転換する政策を打ち出したが, インフラ整備の不足や住民の生活基盤が整っていなかったため, その試みは十分に機能せず, 周辺には新たなスラムが形成され続けている.

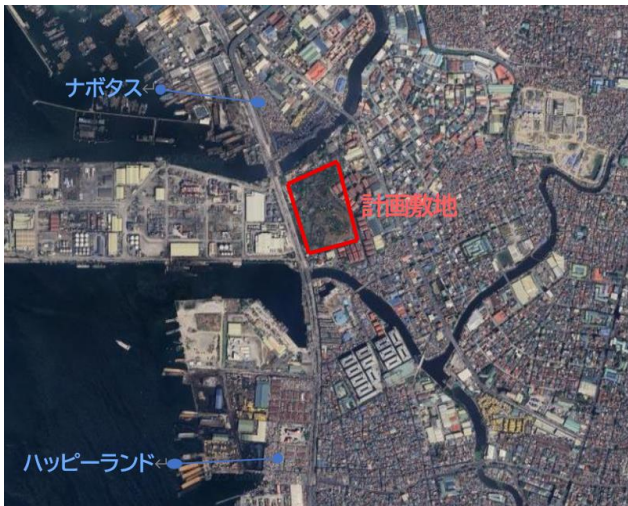


図3 スモーキーマウンテン跡地²⁾

4-2. 建築計画

フィリピンの伝統建築であるバハイクボをモデルとし, 竹・ニッパヤシなどフィリピン国内で生産されている自然素材を建築材料として活用した住宅を提案する. 居住に必要な空間を中心とし, 生活に合わせて住宅規模を調節できるような機能とする.

自然エネルギーの活用や雨水利用を通してオフグリ

ッド建築を目指し, 次世代の環境配慮型建築を牽引する.



図4 スモーキーマウンテン(外観)

図5 現地視察の際に撮影したバハイクボ

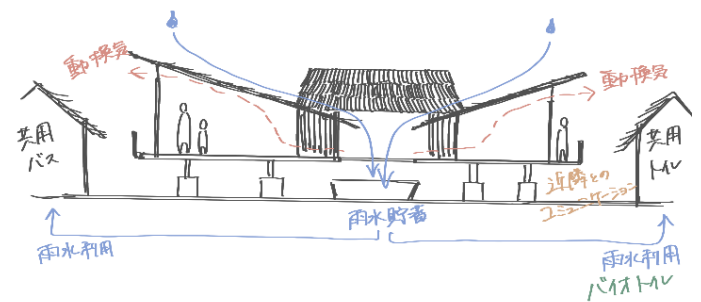


図6 建築計画・自然利用の想定

住民自らが住居建築に参加することは, 単に住宅を完成させるだけでなく, 社会参加の機会を生み出し, 完成後の持続的なコミュニティ形成にも寄与する.

5. 参考文献

- 1) グラフで見るフィリピンの国内総生産(名目 GDP) フィリピンの名目 GDP(国内総生産) (推移と比較グラフ) | GTC
- 2) Google Map
<https://www.google.co.jp/maps>
- 3) Gawad Kalinga
:URL([About GK New Home](#))
- 4) CARITAS MANILA
:URL([Home - A Spirit-led community free of poverty, committed to LOVE for the common good - Caritas Manila](#))
- 5) Habitat for Humanity Philippines
[Habitat for Humanity Philippines](#)
- 6) World Vision Philippines
[World Vision PH | Empowering Children & Communities](#)
- 7) フィリピン赤十字社
:URL([Philippine Red Cross | Humanitarian Organization in the Philippines](#))